
この想いが届くまで

もじゅな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この想いが届くまで

【Nコード】

N1036Z

【作者名】

もじゆな

【あらすじ】

元気ガールと天然ガールとクールボーイと愉快的仲間たちによる、恋愛学園コメディ。

第1話 凸凹トリオ

「じゃあ、行ってきまーす」

玄関で靴を履き、振り返ることもなく家を出る。

あたしの声に返事はなかった。

そりゃあ、そうだよな。

親はいないし、兄はいびき掻いてるし。

……あ、申し遅れました。

あたしの名前は青井^{あおい} 和音^{かずね}。

今日、晴れて高校生になります。

そう、今日は高校の入学式。

徒歩20分ぐらいの普通の公立に通うことになった。

通学路の並木道には桜の木がたくさんあって、まるで今日を祝ってるみたい。

いやー、照れるぜ、桜さん。

あたし今のもすごい緊張してるんだから。

入学式ってさ、緊張しない??

勉強ついていけるのかとか、友達は出来るのかとか……。
考えたら余計緊張するわ。

落ち着け、和音。

ていうか、制服ブレザーなんだよ!?

中学セーラーだったから、ブレザーに憧れてさ。
いやー、いいね。ブレザーは。
高校生って感じ。

あー、あたし高校生だって。
ヤバいわ。やってけるのかしら??
これでも人見知り激しいんだよね。
最初が肝心とか言うじゃん??
ブレッシャーかかりますけど!?
駄目だ。緊張とかでパニックてる。
しっかりしろ!! 和音!!

そんな感じで頭はパニックながらも歩いていたら、二人の人物が見えた、

「…あ、カズちゃん!!」
「あいつ、ロボットみたいな歩き方してるけど大丈夫なのか」

あたしの名前を呼びながら手をブンブン振っているのは、須藤（すどう）一（い）咲（さき）。
一

あたしを見て呆れた表情をしているのが（失礼だな）、高橋（たかはし）瞬斗（しゅんと）。
瞬斗

二人とも中学からの知り合いで、高校も一緒。

特にイサキとは大の親友でもある。
（シュンに関しては微妙であるが）

「もしかして、待った??」
「全然大丈夫だよ」

「お前無駄に緊張してるんだな。

右手と右足、一緒に出てたぞ」

「うるさい！！ 緊張なんてしてないって！！」

さっさと行くよ！！

恥ずかしさを降り飛ばすように一人ズンズンと歩く。

いつも通りニコニコしているイサキと、ニヤニヤしているシュンの表情を見ないまま。

「そういえば、最初の文なんかシリアスだよな」

「ああ、確かに。あたしの自己紹介までなんか暗いよね」

「これシリアスじゃなくてギャグ系なのにね」

「それだけ作者の文章力がないんだよ」

「お前ら、そーゆー話しをするんじゃない」

そんな感じで喋りながら学校に向かう。

今回、三人で一緒に行こうと言いだしたのはイサキ。

まあ、初日はあたしも不安だったしOKしたんだけど。

中学二年生の時に二人と知り合い、それ以来よく三人で一緒にいた。

登下校も三人一緒が多かった。

高校は、たまたま三人一緒の高校を受けた。

約束した訳でもなく、偶然。

まあ、この辺高校少ないし。

普通の公立高校だけど、ここランチルームがあるんだよね。

中学は弁当持参だったので、ランチルームの存在を知った時、ここだ！！って思い受験。

あたしのところは親がいないので、弁当は自分で作っていた。

しかも兄がいるので毎日二人ぶん。
ビバ！！ 弁当がいらない学校生活！！

ちなみに、イサキは制服に一目惚れという理由で受験。
まあ、なかなか可愛いもんね、制服。

黒のブレザーにグレーのチェックのスカート。
学年別に色が違うネクタイ。

ちなみに新一年生は緑。

シユンは、家からの距離がいろいろだからという理由で受験。
確かにシユンの家からだといふ分もかからないくらいなんだよね。

こんな感じで三人それぞれの理由で同じ高校に通うことになったわけだ。

...

学校に着いたら校舎の近くで人が群がっている。
きっとクラスの表があるんだろうな。

「一緒のクラスだといいね」

ニコニコと期待した声でイサキが言う。

「だね。シユンはどうでもいいけど」

「俺はカズとは同じクラスになりたくねえな」

「失礼な奴ね」

「お前にだけは言われたくない」

「何よ！！ いつも気に障ること言うくせに」

「それにいちいち反応するお前が悪い」

「どう見てもあんたが悪いでしょ!？」

「耳元で大声上げるな」

「あ!ー! あったよ、サキたちの名前」

あたしとシュンの口喧嘩をスルーしながらイサキはクラス表を指差す。

「マジで!？ 何組何組??」

「C組だよ。しかも三人一緒」

やったねと言いながら飛びきりの笑顔をあたしたちに向けるイサキ。

「まあ、よかったね。三人一緒に」

「三人別々よりはマシ、か」

イサキの飛びきり笑顔を見せられたあたしたちは、すっかりイサキのペースに乗せられてしまった。

まあ、イサキが喜んでいるから良しとしよう。

「じゃあ、さっそく教室に行こ」

三人同じクラスで一気にテンションが上がったイサキを先頭に教室に向かった。

……

「とりあえず、この一年は楽しく過ごせそうだね」

「まあね。勉強もイサキがいれば大丈夫だし」

帰り道。

入学式だけだったのですぐに帰ることができた。

「結局今回、登下校だけだよ」

シユン君、突っ込んだら負けよ（キリッ

「明日からも三人で行こうね」

「はあ、明日からもまたカズのうるさい会話に付き合わないといけないのか」

「うるさいとは何よ。それにあたしシユンに話しかけたことないけど??」

「だとしてもうるさい」

「じゃあ、耳栓してなさい。」

「お前はガムテープでも巻いてこい」

「嫌よ!! ガムテープ痛いの知ってる!?!
ドラマみたいにすぐ剥がれないんだよ!!」

「いちいち本気になるなよ...」

（相変わらず仲いいなあ、今日も平和だね）

こうして、元気ガールと天然ガールとクールボーイの凸凹トリオの新しい高校生活が始まった。

第1話 凸凹トリオ（後書き）

次話から、前書きに登場人物の自己紹介を書きます。

第2話 バスケ部とか似合いそうなのに（前書き）

あおい かずね
青井 和音

3月30日生まれ 牡羊座 A型

ニックネームはカズ。

元気で活発、サバサバした性格の持ち主。

裏表がなく、思ったことをズバッと言ってしまふ時にはKYな子。
意外に人見知りが激しかったりする。

父・母・兄の四大家族。

両親が仕事の都合上いないので、家事はお手の物。

特に料理が得意で、弁当とか毎回気合いを入れてたりする。
小学の時からダンスを習っている。

トリオの中ではムードメーカー的存在。

イサキを溺愛しており、姉御気分で接している。

シュントとは喧嘩友達みたいな感じ。

イサキのことには意気投合する（軽く変態）。

第2話 バスケ部とか似合いそうなのに

入学式から一週間。

少しはクラスに馴染んできたぐらいの時期。

「カズちゃん、お昼だよー」

「カズのランチの唐揚げうまそー」

「…人参、カズにあげる」

あたしの周りも賑やかになった。

相変わらずニコニコしながらサンドイッチを食べるイサキ。（可愛いな、畜生）

隣には新メンバー、空知^{そらち} 雀^{すずめ}と手塚^{てづか} 麻夜^{まよ}。

ちなみに、勝手に唐揚げを取っていったのが雀で、さりげなく人参をあたしのランチのお皿に乗せたのが麻夜だ。

「勝手に唐揚げ取らないでよ!!」

雀の酢豚貰ったろ」

「あ、それは勘弁して」

「それで、麻夜ちゃんと人参食べなさい」

「私人参アレルギーだから」

「ないよ!! そんなアレルギー!!」

「カズちゃん、制服にご飯粒ついてるよ」

雀は明るくてキャピキャピした子。

麻夜は大人しめの性格。

イサキ曰く、雀と席が近く意気投合したので一人でいた麻夜も一緒にあたしのところに連れてきたそう。

実際、雀とは気が合うし、クール系の麻夜も巧みなボケとツツコミを使ってくる。

人見知りが激しいあたしだけど、この二人とはすぐ仲良くなれた。

「そつえばさ、イサキって高橋と付き合ってるの??」

突然、酢豚を食べながら雀が言い出した。
無論、高橋というのはシユンのことだ。

「付き合ってないよ。ただの幼なじみ」

「ただの幼なじみにしては仲良すぎでしょ」

「そうかな??」

うーんと考えて込んでいるイサキ。

イサキとシユンは家が隣近所で小さい頃からよく遊んでいたらしい。今でもよく一緒にいるにいるし（あたしも乱入してるけど）、仲がいいからよく勘違いされている。

「カズ、本当に付き合っていないの??」

「うん、付き合っていないよ」

雀が確認の意味を込めてあたしに聞いてくる。

付き合っていないのは確かだけど、あたしの予想では二人は両想い。
二人ともお互いのことになると思う。顔が緩むもん。
きっと好きなんだろうなって思う。

そう考えると、なんかムシクシヤするから極力考えないようにして
るけど…。

「…そういえば、みんな部活どうするの??」

少し変になった場の雰囲気を変えようと、麻夜が違う話題をふつて
きた。

ナイスだ!! 麻夜!!

「わたしはサッカー部のマネージャー!!」

拳手しながら勢いよく答える雀。

「男目当て??」

「うーん…。まあそんな感じかな??」

「サッカー部!! イケメンっていう方程式とかありそうだね」

「抜け目ないね」

「何て言うか…、好きな先輩がいるから…」

ヒュー♪

雀ってピュアガールだね。

「麻夜は??」

「…美術部のつもり」

「絵、上手いの??」

「上手くはないけど好きだから…」

麻夜は美術系なのね。確かにベレー帽似合いそう。

「カズとイサキは??」

「入らないよ」

「……………え?? 入らないの??」

ここの高校は部活を強制参加させるような規則はないはず。だから帰宅部でも問題ないはずだけ。

「…なんか、意外」

「うん!! カズとかバスケ部とか似合いそうなのに」

そんなに意外だったのか、二人とも変にソワソワしている。

「…まあ、別にいいけど。帰り気を付けてね」

「え?? 何で??」

「ここの高校は確かに部活の強制参加はないけど、少しでも部員集めようと勧誘がすごいんだって」

残してある人参をつつきながら冷静に麻夜が言う。

後に、あたしたちはその凄まじい勧誘の被害に遭うことになる――

第2話 バスケ部とか似合いそうなのに（後書き）

2話にしては地味な話になってしまった…。
シュント登場してないし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1036z/>

この想いが届くまで

2011年12月9日08時45分発行